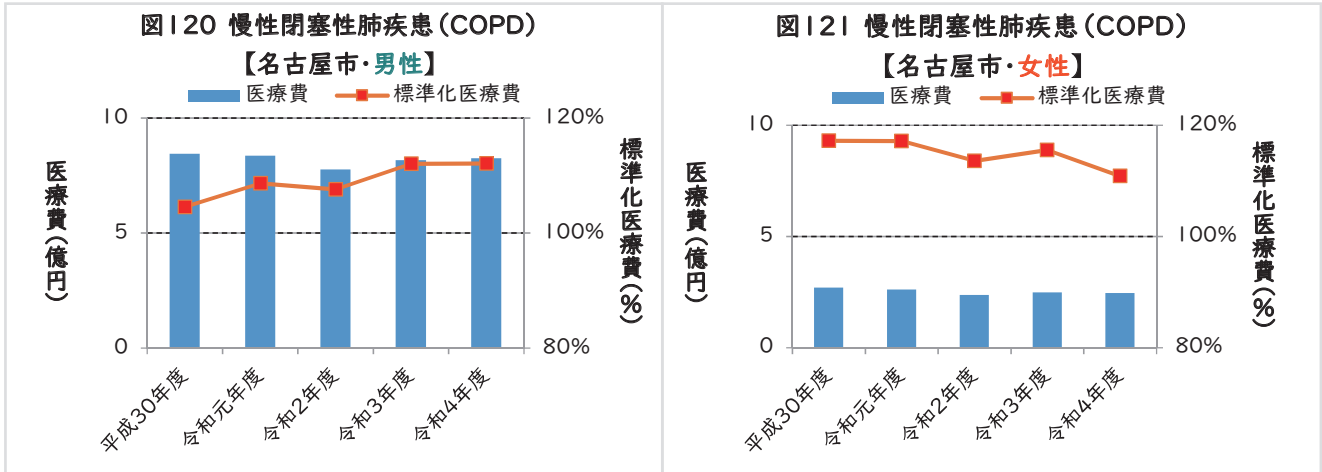


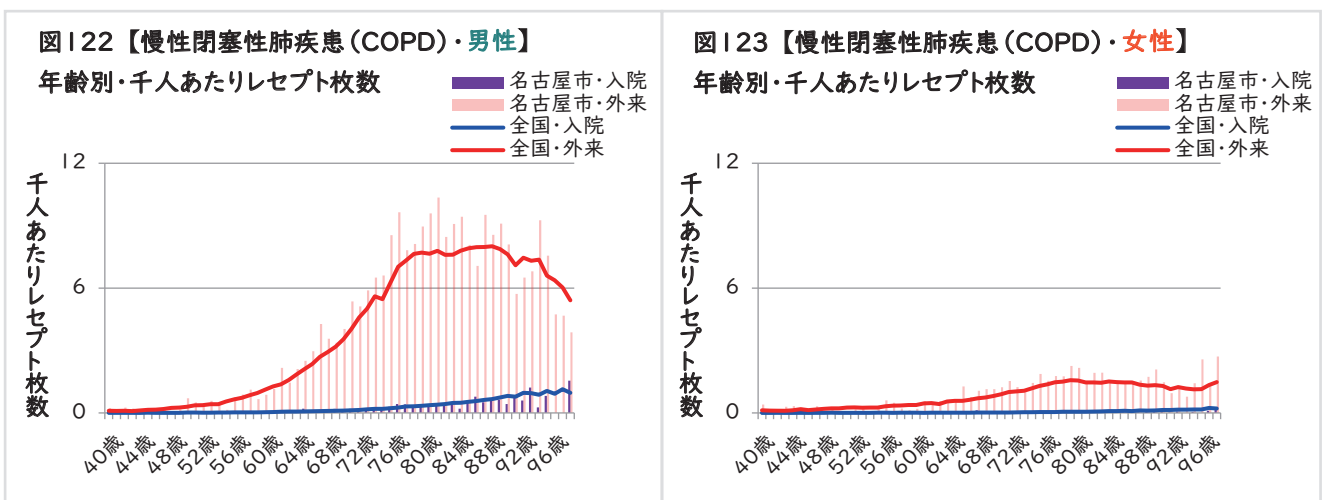
イ 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

慢性閉塞性肺疾患は喫煙習慣を背景に発症する生活習慣病であり、男性に多い疾病です。男女とも標準化医療費は高値であり、男性の標準化医療費は増加傾向ですが、女性は減少傾向です(図120、121)。

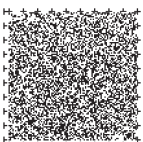


出典:国保データベース (KDB) システム

男性の千人あたり外来レセプト枚数は50歳代後半から急増し、70歳代半ばでピークに達しています。また入院レセプト枚数は、70歳代半ばから増加しており、COPDに肺炎を併発することによる入院の増加が推察されます(図122、123)。

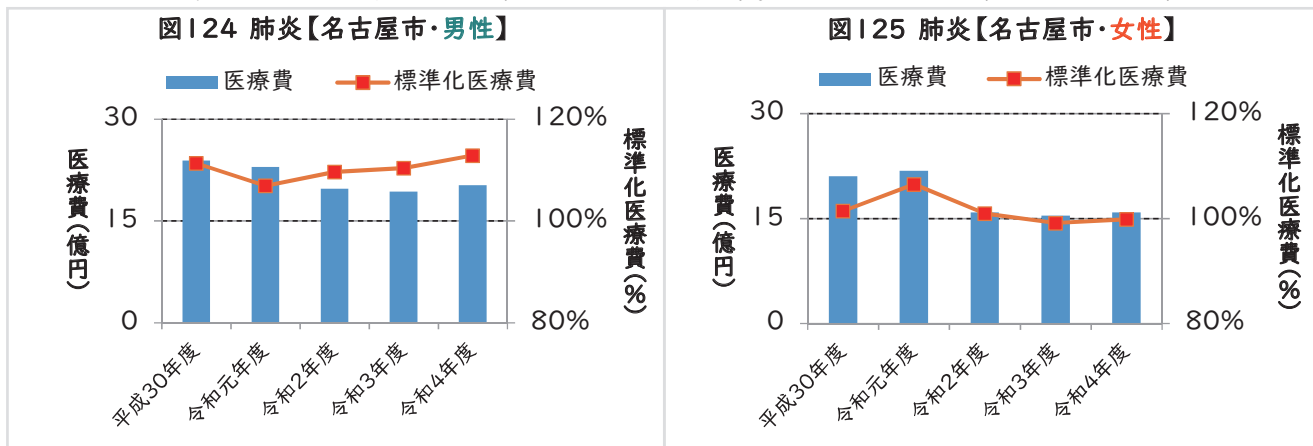


出典:国保データベース (KDB) システム



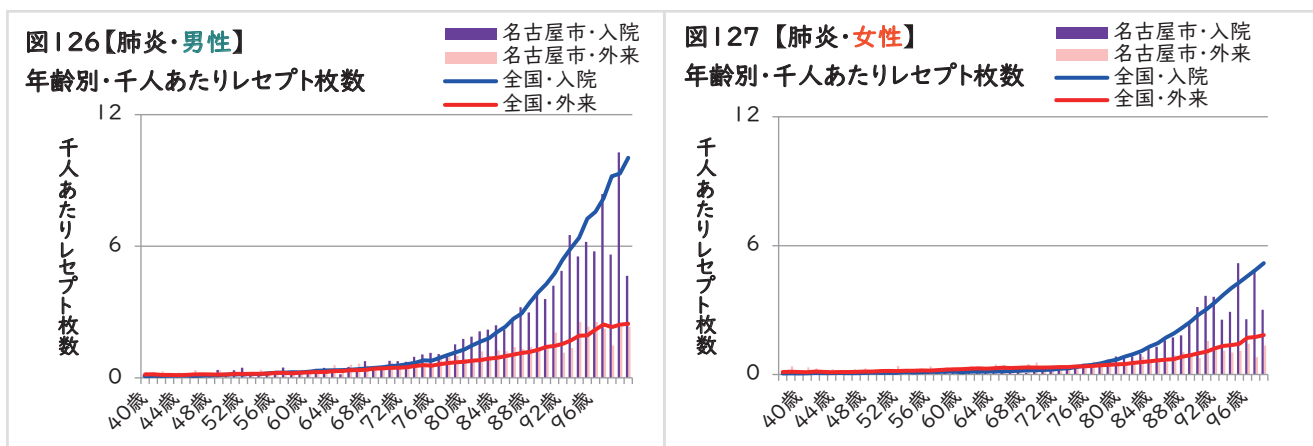
ウ 肺炎

肺炎の疾病別医療費は男女ともに令和2(2020)年度に急減していますが、標準化医療費は男性では令和元(2019)年度に減少したのち、令和2(2020)年度以降に増加しています。一方、女性では逆に増加したのち減少し、以降は100%程度で変化がありません(図124、125)。



出典:国保データベース(KDB)システム

千人あたりのレセプト枚数は男性70歳付近、女性は80歳付近から増加を開始し、その年代から入院レセプト枚数が外来レセプト枚数を上回ります(図126、127)。



出典:国保データベース(KDB)システム

エ 逆流性食道炎

逆流性食道炎は後期高齢者の女性では乳がんと同程度の医療費です(27ページ図39参照)。女性の医療費は男性の2倍程度で、標準化医療費は男性は減少傾向、女性は増加傾向で、外来レセプト枚数は40歳以降、年齢に比例して増加しています(図128~131)。

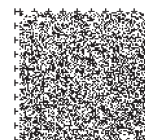


図128 逆流性食道炎【名古屋市・男性】

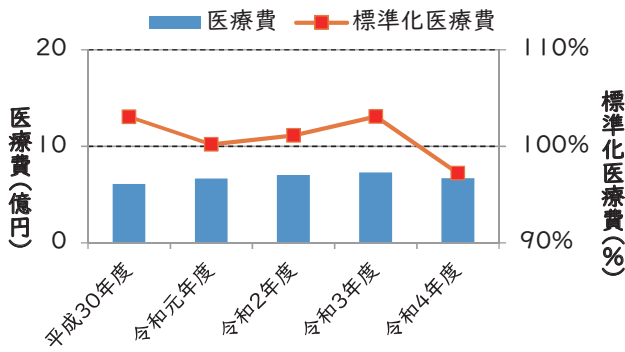


図129 逆流性食道炎【名古屋市・女性】

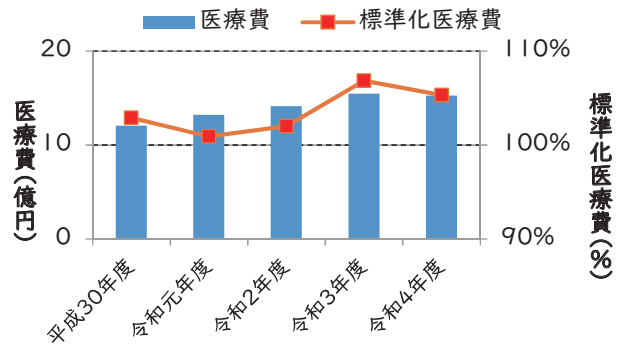


図130 【逆流性食道炎・男性】

年齢別・千人あたりレセプト枚数

■ 名古屋市・入院
■ 名古屋市・外来
■ 全国・入院
■ 全国・外来

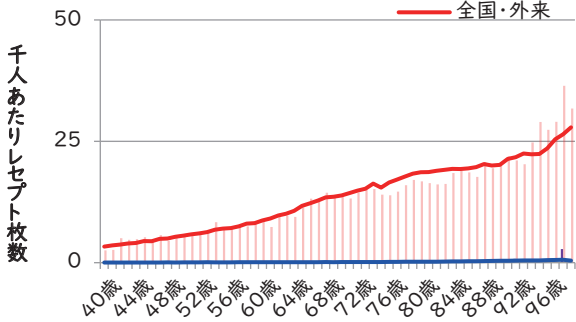
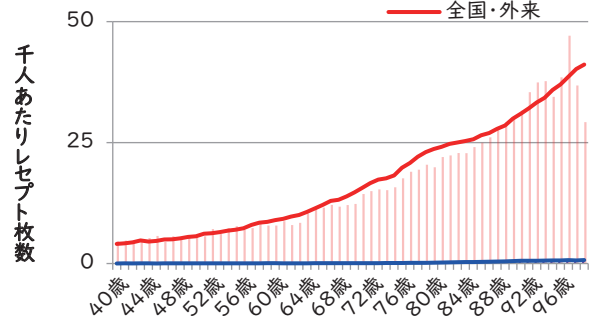


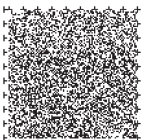
図131 【逆流性食道炎・女性】

年齢別・千人あたりレセプト枚数

■ 名古屋市・入院
■ 名古屋市・外来
■ 全国・入院
■ 全国・外来



出典：国保データベース (KDB) システム



5 考察

名古屋市の人口は平成2(1990)年をピークに横ばいの状態が続き、令和2(2020)年からは減少に転じています。生産年齢人口が老年人口に置き換わりながら高齢化が進行しており、健康寿命の延伸は喫緊の課題です。

近年の名古屋市の平均寿命と健康寿命の伸びは、政令指定都市等の中で下位に位置し、高齢者の要支援・要介護認定率は政令指定都市の中では中位ですが、いずれの年齢層でも全国を上回っており、早期からの有効なフレイル予防対策が求められます。

今回、KDBデータを用いた分析結果から、以下の点が明らかになりました。

名古屋市では男女とも空腹時血糖、尿酸の有所見率が全国より高く、後期高齢者ではHbA1c、血圧、LDLコレステロールについても全国より高値であり、さらに近年上昇傾向にあります。

名古屋市の後期高齢者において多くの医療費が使われている疾患として、歯科、骨折、不整脈、糖尿病、慢性腎臓病(透析あり)、関節疾患、脳梗塞、高血圧症、骨粗しょう症、肺がんが上位に挙げられました。

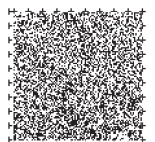
歯科に多くの医療費が使われていますが、歯科疾患でまとめた集計となっており、また医療アクセスの良さや、治療意識の高さを反映している可能性もあり、さらなる調査・分析が必要です。

名古屋市では特に人工透析に至る慢性腎臓病、糖尿病の医療費が高額で、全国と比しても高く、糖尿病の重症化予防は大きな健康課題であると言えます。政令指定都市の中で名古屋市の国民健康保険特定健康診査受診率は中位でしたが、特定保健指導の実施率は政令指定都市の中では下位でした。健康診査受診の動機付けや、受診をしやすくするための取り組みと共に、生活習慣の改善や必要な受診へと導くためにも保健指導実施率を増加させるための施策が求められます。女性では骨折、骨粗しょう症、関節疾患の医療費が高く、フレイル対策が重要です。

名古屋市において、悪性新生物は男女とも65歳時の平均余命への影響が最も大きい疾患であり、医療費の点でも大きなウエイトを占めています。がん検診受診率向上による早期発見・早期治療と共に、がん予防に関する知識の普及啓発が必要です。

慢性閉塞性肺疾患(COPD)はフレイルの原因としても頻度が高い生活習慣病であり、喫煙や栄養管理などへの対策が必要です。女性で医療費が高い逆流性食道炎は誤嚥性肺炎のリスク要因でもあり、生活習慣への介入による効果も期待できます。

名古屋市の高齢者の要支援・要介護認定率は全国平均より高く、認知症や転倒予防、オーラルフレイルへの対策が必要です。社会とのつながりを失うと、生活が不活発になり、食欲低下、栄養の偏り、筋肉量減少・筋力低下などの多様な症状がみられ、フレイルの最初の入り口となるおそれがあります。その予防策として「通いの場」等へ的高齢者の社会参加を増やすことが必要です。



6 おわりに

日本の高齢化は世界に先駆けて進行し、少子化に改善の兆しは現れません。名古屋市も例外ではなく健康寿命の延伸、医療費の大きな部分を占める高齢者の健康増進と医療費適正化は避けては通れません。

後期高齢者を中心とした健康診査、介護・医療データの分析により、名古屋市高齢者の健康課題が明らかになりました。

この分析結果から見えた健康課題について、現在実施している保健事業や介護予防事業等に反映するとともに、状況に応じて新規事業の企画等、「一体的実施」の推進に努めてまいります。

